

第48期第2四半期連結累計期間 決算説明資料

(2013年4月1日 ~ 2013年9月30日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **エノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 **JASDAQ**

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

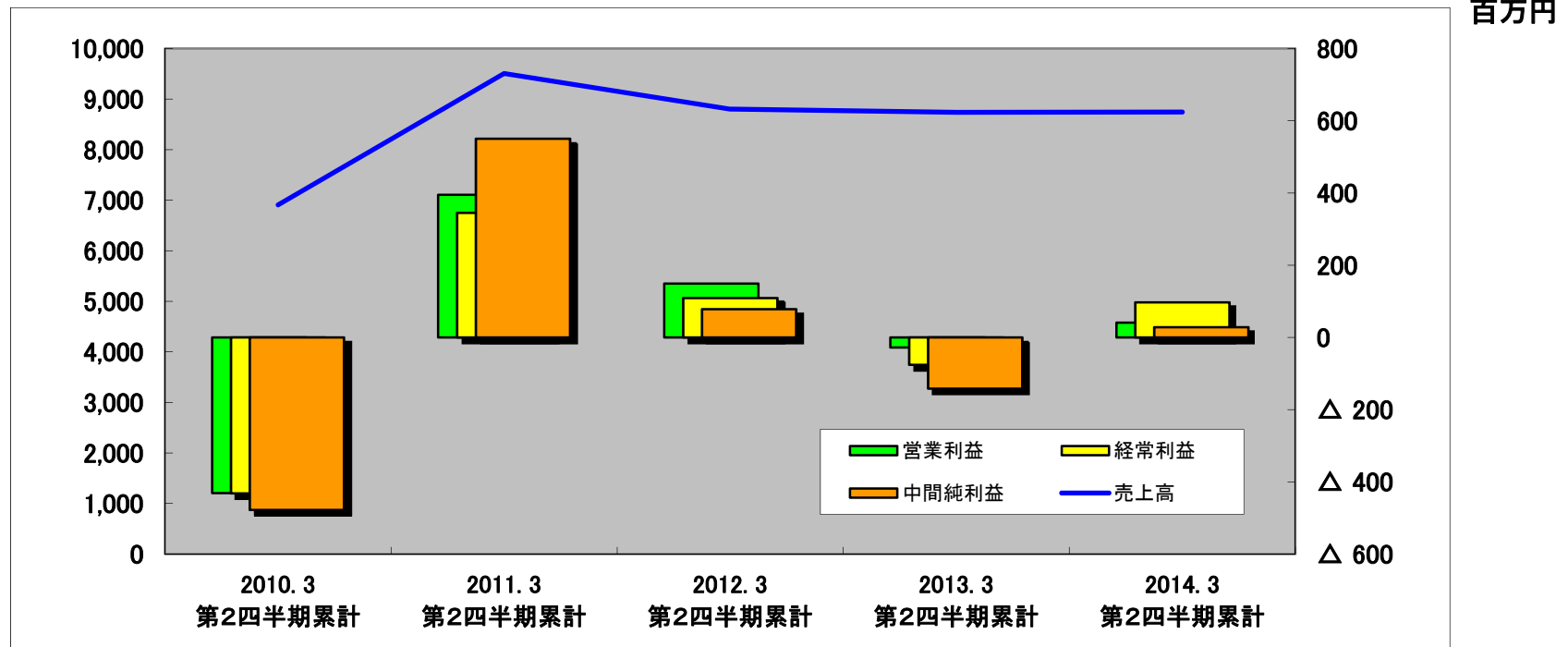
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



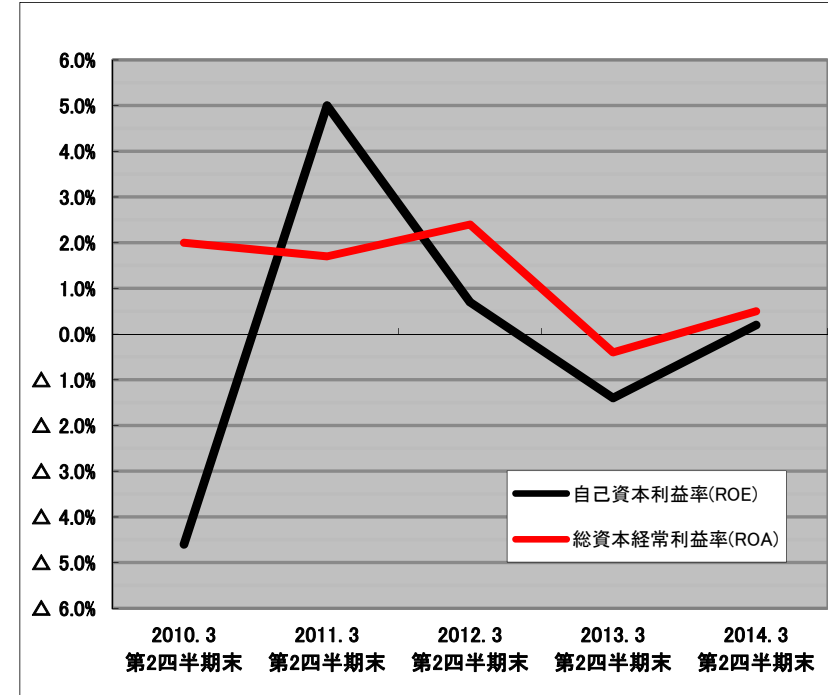
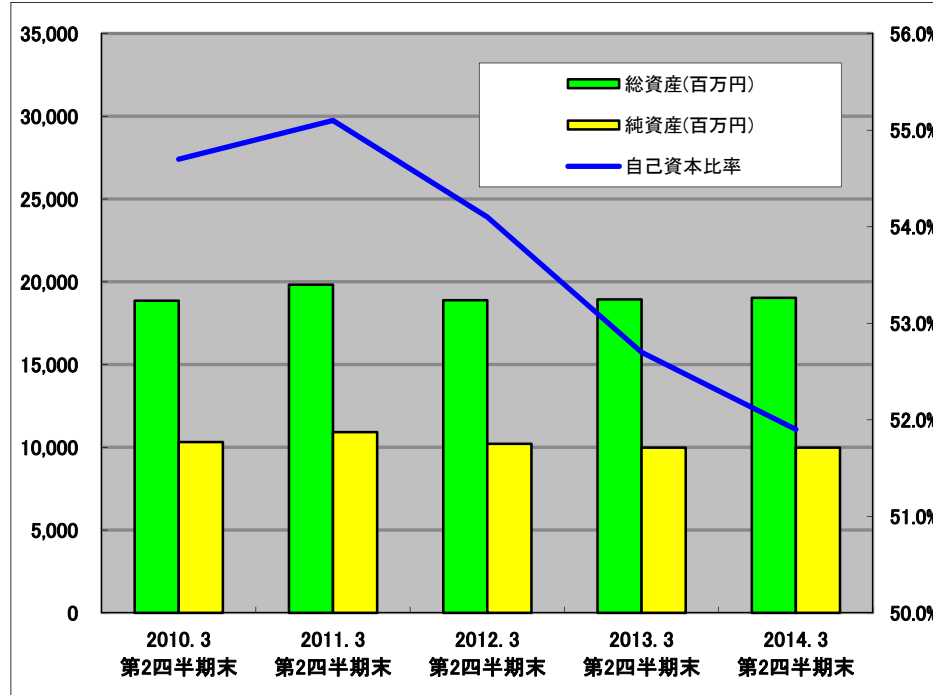
第2四半期連結累計
期間のご報告

■ 連結業績の推移



	2010.3 第2四半期累計	2011.3 第2四半期累計	2012.3 第2四半期累計	2013.3 第2四半期累計	2014.3 第2四半期累計	前期比
売上高	6,907	9,505	8,800	8,737	8,741	0.0%増
営業利益	△ 431	395	149	△ 28	41	-
営業利益率	-6.3%	4.2%	1.7%	-	0.5%	-
経常利益	△ 432	345	109	△ 76	97	-
経常利益率	-6.3%	3.6%	1.2%	-	1.1%	-
四半期純利益	△ 478	550	78	△ 142	28	-
四半期純利益率	-6.9%	5.8%	0.9%	-	0.3%	-

百万円



	2012. 3 第2四半期末	2013. 3 第2四半期末	2014. 3 第2四半期末	2012. 3期末	2013. 3期末
総資産	18,889	18,939	19,037	18,351	18,496
純資産	10,213	9,986	9,885	10,103	9,219
自己資本比率	54.0%	52.7%	51.9%	55.1%	49.8%
自己資本利益率(ROE)	0.7%	-1.4%	0.2%	0.6%	-13.5%
総資本経常利益率(ROA)	2.4%	-0.4%	0.5%	0.8%	-3.1%

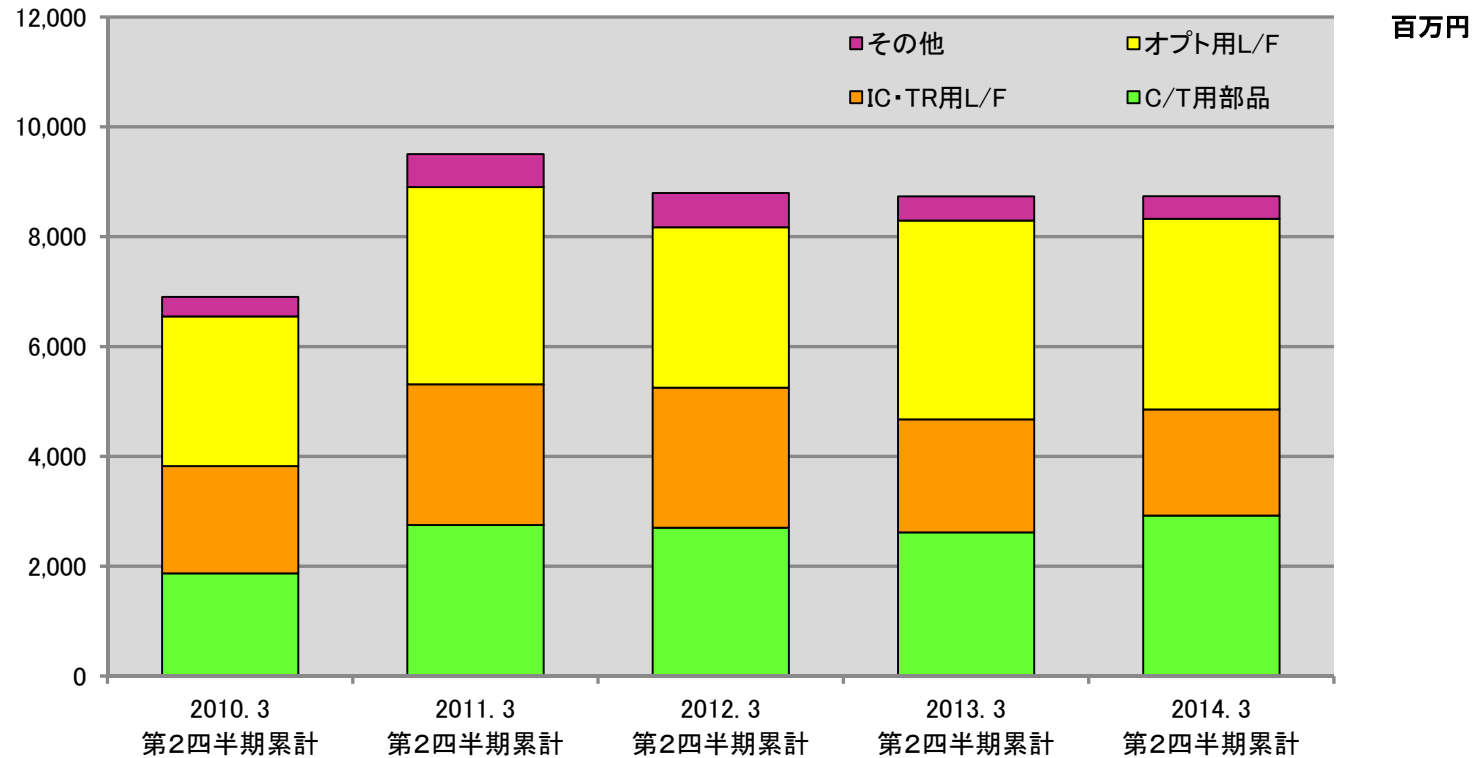
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融緩和への期待感から、円安・株高を背景に企業収益が改善するなど景気回復の兆しが見受けられました。一方で世界経済は、米国経済の緩やかな回復傾向が継続しているものの、欧州での景気低迷が長期化し、中国・インド等の新興諸国における経済成長が低下する等、世界経済は全体的に停滞した状況が続き、先行きも楽観視できない状況であります。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、民生用のパソコン、テレビ、デジタルカメラ等は依然として厳しい状況が続いているものの、産業機器や自動車向けデバイス部品需要の回復がみられてきております。

このような経営環境下において、当社グループといたしましては、製造時の歩留まり率向上を主眼とした品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行う等、全社一丸となって業績の回復に取り組んで参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は87億4千1百万円(前年同四半期比0.0%増)となりました。また、営業利益は4千1百万円(前年同期は営業損失2千8百万円)、経常利益は9千7百万円(前年四期は経常損失7千6百万円)、四半期純利益は2千8百万円(前年同期は四半期純損失1億4千2百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2010. 3 第2四半期累計	2011. 3 第2四半期累計	2012. 3 第2四半期累計	2013. 3 第2四半期累計	2014. 3 第2四半期累計	前期比
IC・TR用リードフレーム	1,871	2,753	2,703	2,617	2,923	11.7%増
オプト用リードフレーム	1,954	2,562	2,550	2,058	1,932	6.2%減
コネクタ用部品	2,725	3,589	2,920	3,621	3,472	4.1%減
その他	355	600	625	439	413	6.0%減
合計	6,907	9,505	8,800	8,737	8,741	0.0%増

① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生機器向けが主なものであります。市場鈍化の影響から、総じて民生機器向けの電子部品の需要が伸び悩んでおりますが、各自動車メーカーが増産傾向にあることやカーエレクトロニクス化の進展を背景に車載向けデバイス用部品等の需要が拡大しております。その結果、当製品群の売上高は29億2千3百万円(前年同四半期比11.7%増)となりました。

② オプト用リードフレーム

当製品群は、車載、照明及びディスプレイ向けLED用リードフレームが主なものであります。台湾・中国メーカーの台頭による国際市場での競争激化を背景にLEDの供給過剰状態が続いていることから、前期後半より国内の主要ユーザーを中心に在庫調整の動きが続いております。その結果、当製品群の売上高は19億3千2百万円(同6.2%減)となりました。

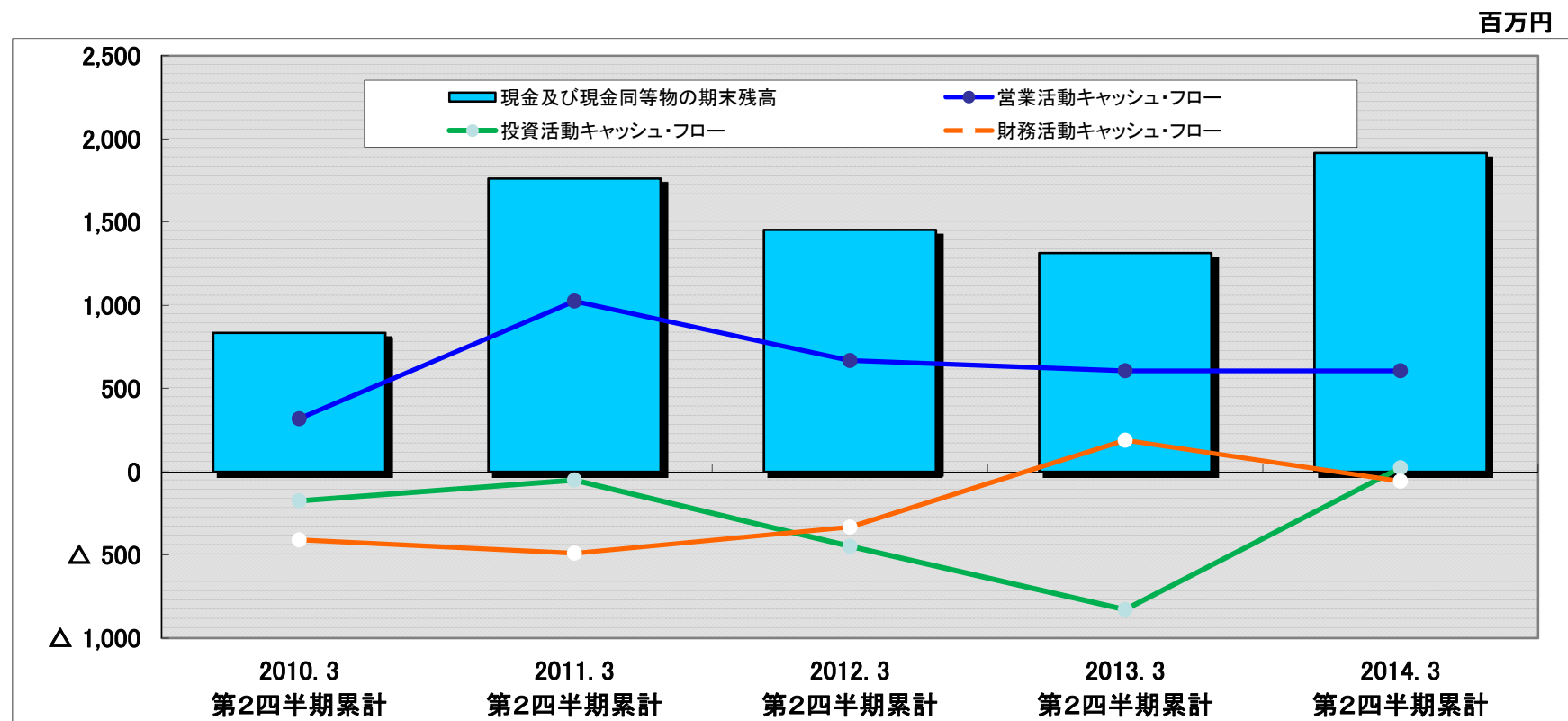
③ コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話・スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。スマートフォンやタブレット型端末等のアイテムを中心に急拡大して参りましたが、ハイエンド市場の成熟により過熱した状況が解消されつつあることから主要ユーザーを中心に在庫調整の動きが続いております。その結果、当製品群の売上高は34億7千2百万円(同4.1%減)となりました。

④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は4億1千3百万円(同6.0%減)となりました。

■ キャッシュ・フロー



	2012. 3 第2四半期累計	2013. 3 第2四半期累計	2014. 3 第2四半期累計	前期比	2012.3期末	2013.3期末
営業活動キャッシュ・フロー	668	606	606	0	640	36
投資活動キャッシュ・フロー	△ 448	△ 829	24	853	△ 743	△ 1606
財務活動キャッシュ・フロー	△ 333	189	△ 57	-246	△ 112	△ 1,438
現金及び現金同等物の期末残高	1,453	1,314	1,916	602	1,349	1,259

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前第2四半期連結会計期間末に比べ6億2百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には19億1千6百万円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は6億6百万円(前年同四半期は6億6百万円の取得)となりました。これは主にたな卸資産の減少2億1千4百万円及び原価償却費5億4千万円、仕入債務の増加2億4千9百万円による資金の増加、役員退職慰労引当金の減少4億9千8百万円による資金の減少であります。

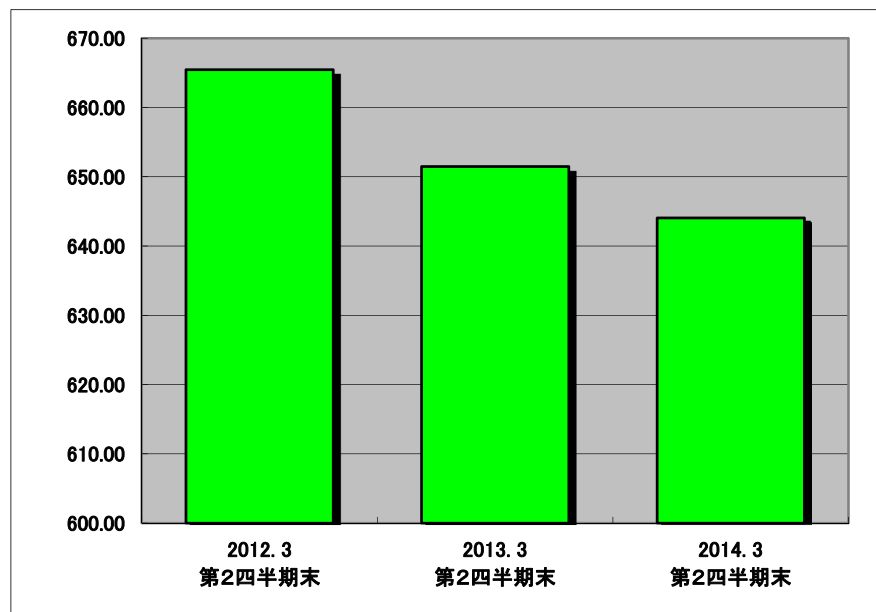
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は5千7百万円(前年同四半期は8億2千9百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出3億8千6百万円及び投資その他の資産の減少4億7百万円による資金の増加であります。

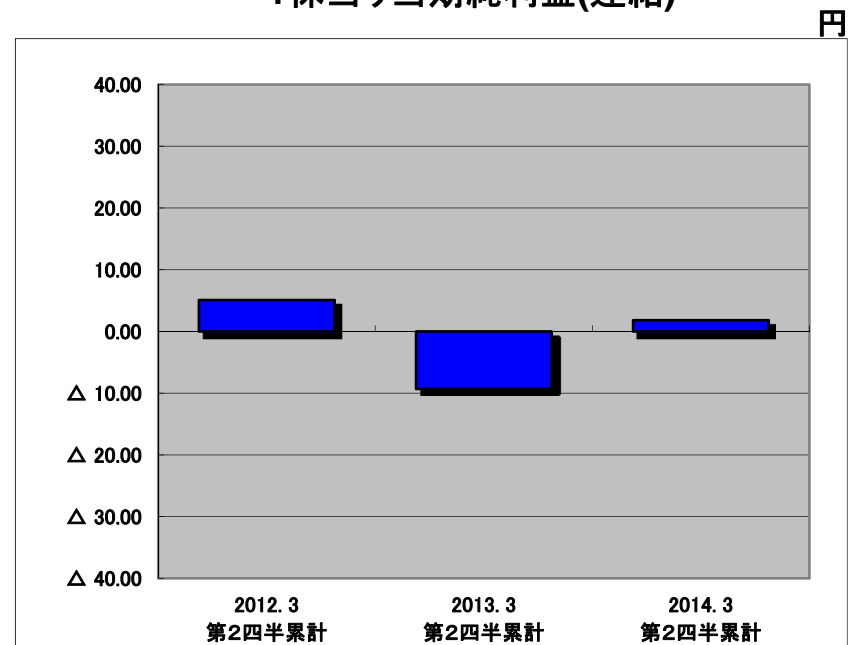
➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は5千7百万円(前年同四半期は1億8千9百万円の取得)となりました。これは主に短期借入金3億3千7百万円の増加及び長期借入金3億8百万円の返済によるものであります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)



	2012. 3 第2四半期累計	2013. 3 第2四半期累計	2014. 3 第2四半期累計	2012. 3期末	2013. 3期末
1株当り純資産(連結)	665.47	651.49	644.08	659.12	601.53
1株当り当期純利益(連結)	5.09	Δ9.29	1.83	4.29	Δ84.81

○配当について

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益配分を安定かつ継続的に実施することを重視し、利益水準や配当性向などを総合的に判断して、適切な利益配分を行っていくことを基本方針としております。

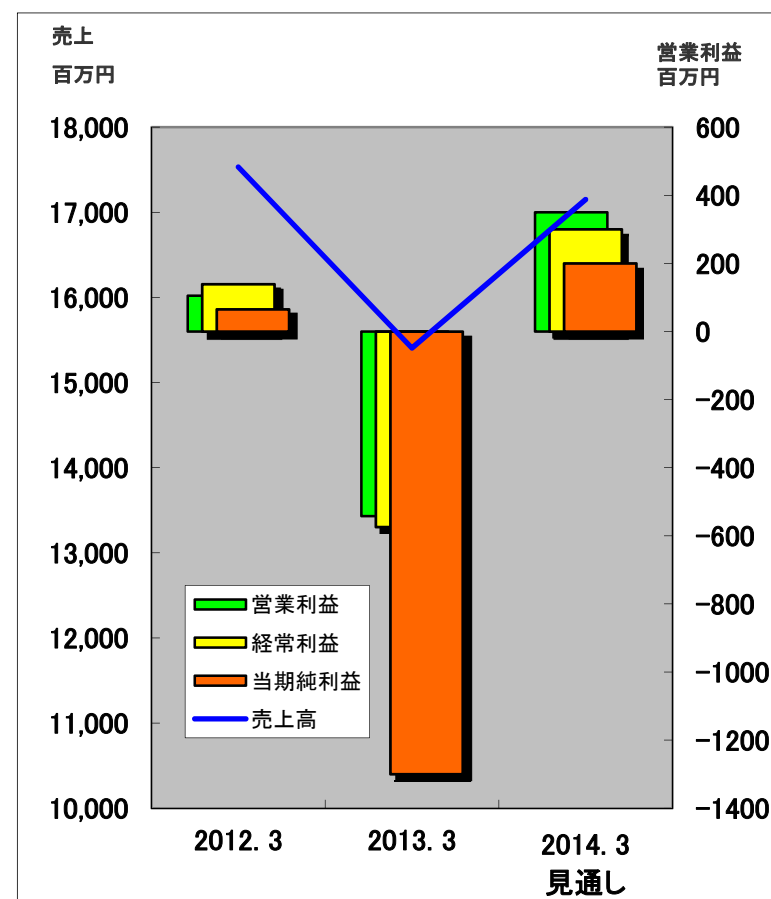
当期の第2四半期末配当金につきましては、前期より低迷している業績の状況ならびに厳しさを増す経営環境等を勘案し、誠に遺憾ながら、当初予想通り無配とさせていただくことといたしました。

株主の皆様には深くお詫びを申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるように努めて参りますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年3月期
の見通し

■通期業績予想(連結)

	2012. 3	2013. 3	2014. 3 見通し	前期比
売上高	17,533	16,405	17,150	4.5%増
営業利益	105	-542	350	-
営業利益率	0.6%	-3.3%	2.0%	5.3P増
経常利益	139	△574	300	-
経常利益率	0.8%	-3.5%	1.7%	5.2P増
当期純利益	65	△1,300	200	-
当期純利益率	0.4%	-7.9%	1.2%	9.1P増

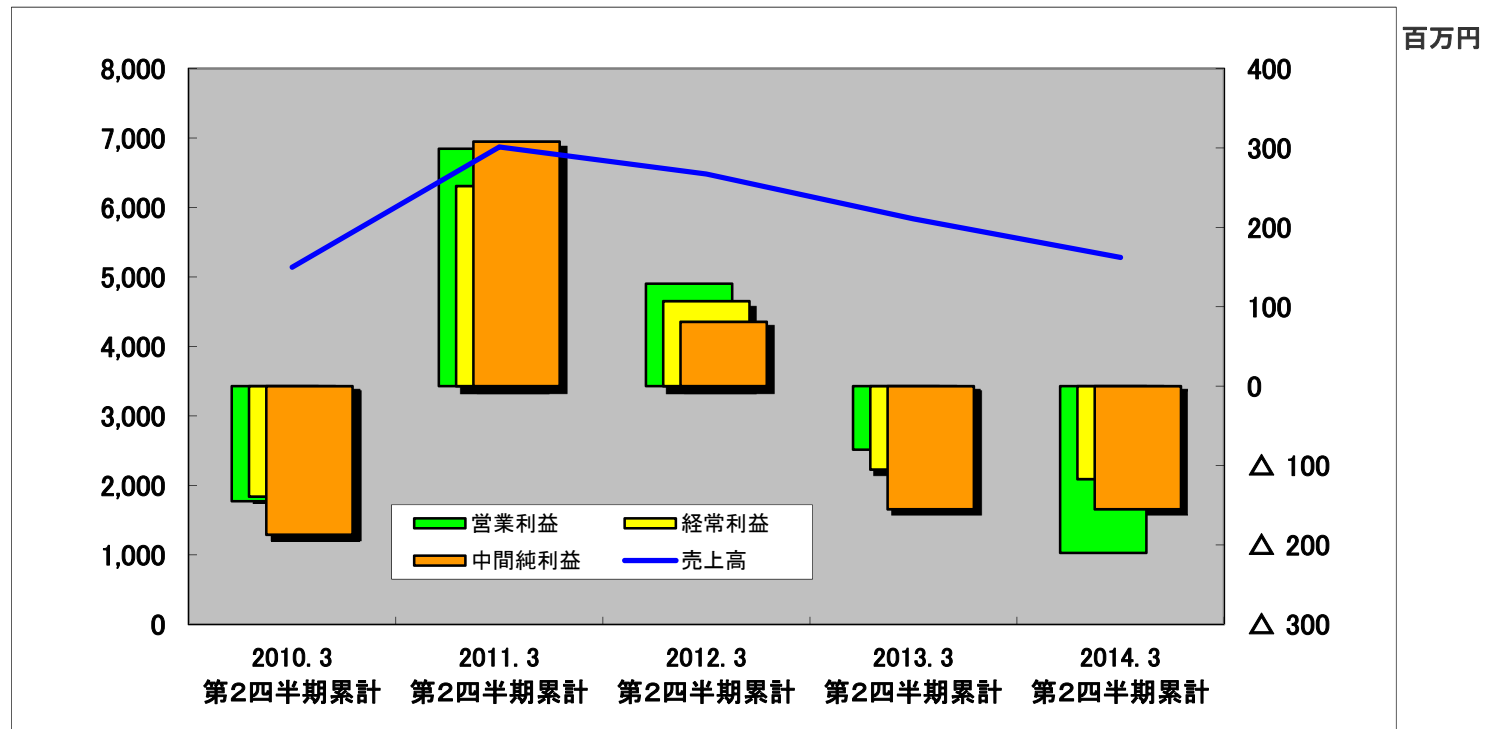


第3四半期以降の見通しにつきましては、欧州経済の低迷や中国経済の成長鈍化等の不透明感はあるものの、輸出環境の改善や経済対策の効果等を背景に、受注は緩やかながら改善するものと見込んでおります。

なお、通期の見通しにつきましては売上高は171億5千万円(前連結会計年度比4.5%増)、営業利益3億5千万円、経常利益3億円、当期純利益2億円を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



	2012. 3 第2四半期累計	2013. 3 第2四半期累計	2014. 3 第2四半期累計	前期比	2012. 3期末	2013. 3期末
売上高	6,482	5,837	5,281	9.9%減	12,470	10,509
営業利益	129	△80	△210	-	150	△727
営業利益率	2.0%	-	-	-	1.2%	-
経常利益	107	△105	△117	-	221	△708
経常利益率	1.7%	-	-	-	1.8%	-
当期純利益	81	△155	△155	-	153	△1,543
当期純利益率	1.3%	-	-	-	1.2%	-



中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2013年度 経営重点テーマ

“スピード”が
最大の顧客サービス

- 即断・即決・即実行を心掛けよう
- 合理性を追求し業務の改善を図ろう
- 生產品質の向上に努めよう

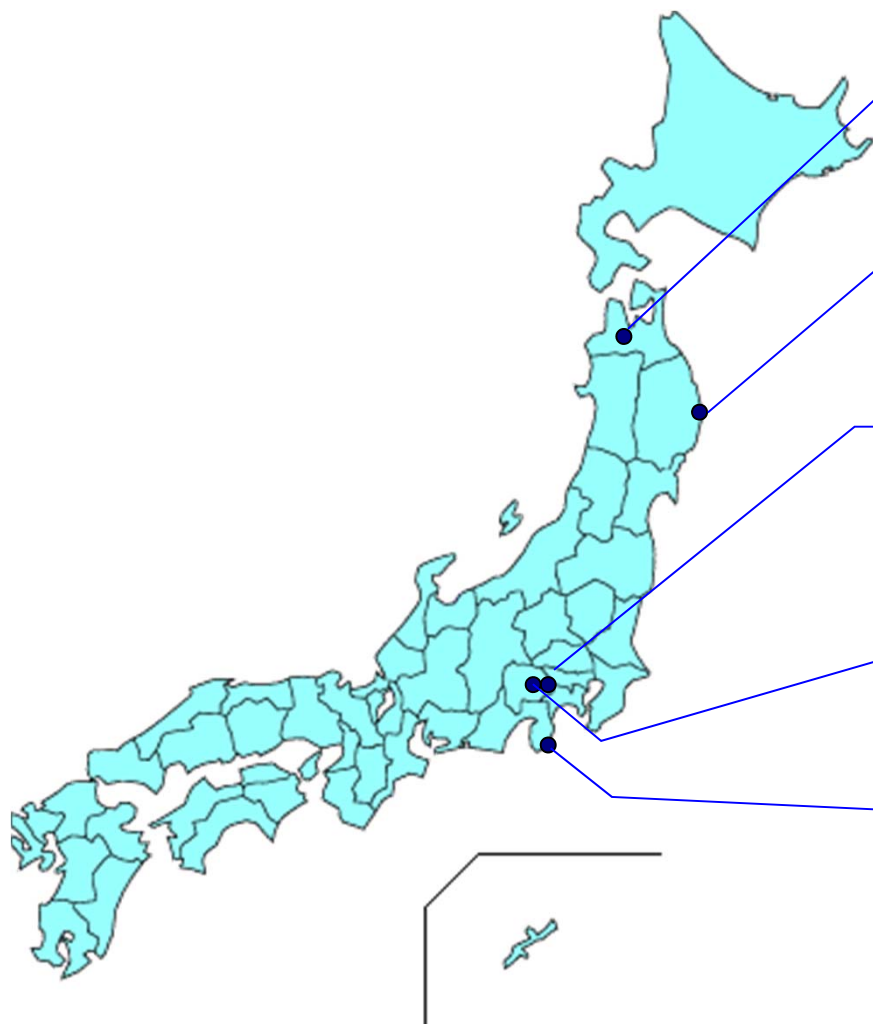
2011年度より5カ年の中期経営方針として『経営品質の向上と新たな価値の創造』を掲げ、今後わが社がグローバルに発展し、【高技術】【高効率】【高収益】の企業グループへ脱皮するための改革を全社レベルで推進しております。





当社グループが対処すべき課題として、中期的な経営方針として掲げた項目の実現のために、特に年度毎に経営重点課題を設定して全社的な取り組みを推進しております。

新中期経営方針の3年目にあたる2013年度の経営重点課題としては、前年度に引き続き事業活動の中心となる「経営判断」「顧客対応」「モノ造り」の全ての過程においてスピードアップを図る事を掲げ、当社グループの総力を結集して、業績の回復・拡大に専念してまいります。



・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社／上野原工場

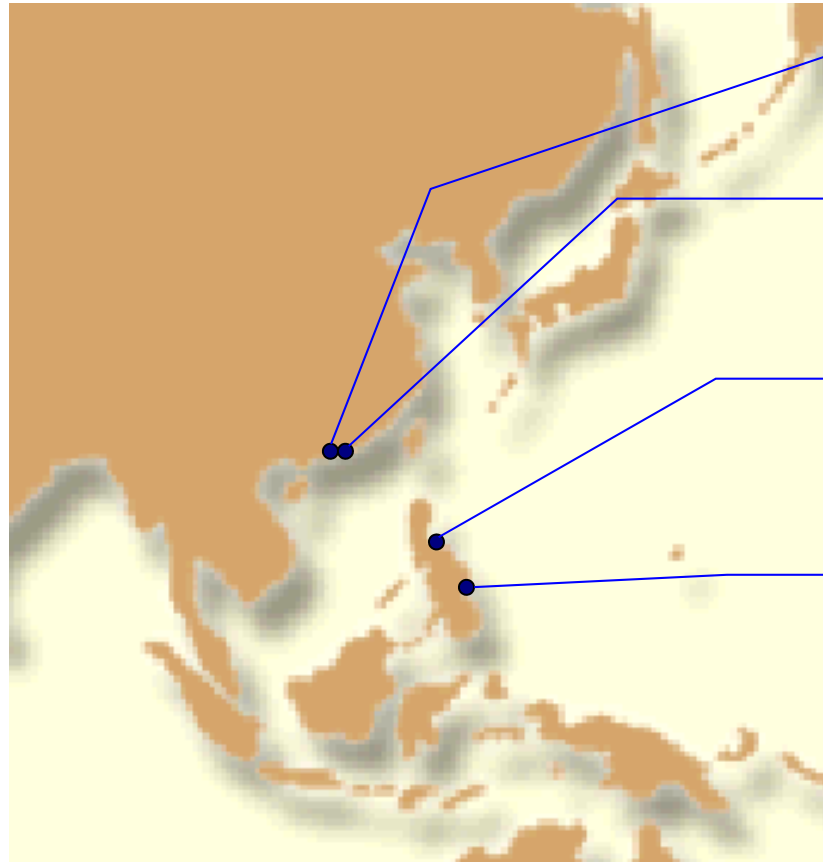
山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159

・下田工場

静岡県下田市加増野字大古隅12-1
TEL.0558-28-1550 FAX.0558-28-1552



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開発区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.